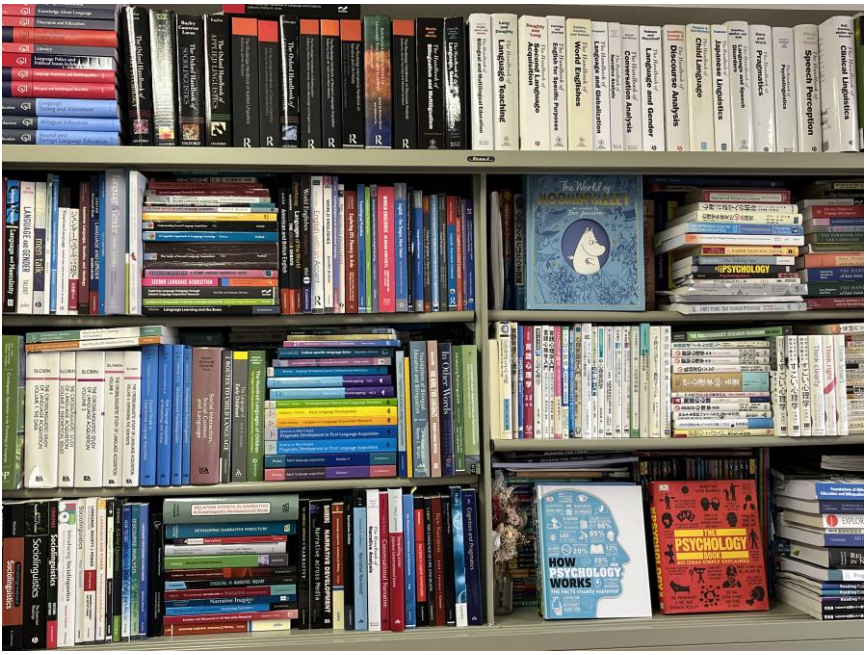
Meikai University Department of English

Recommended Reading for Eibei Students (Ver. 14)



教員の本棚シリーズ 5

推薦図書 2024

明海大学外国語学部英米語学科

英米語学科学生のための推薦図書（Ver. 14）

目次

1. はじめに…… 3
2. 2024 年度 英米語学科教員…… 4
3. 英米語学科教員による推薦図書…… 5

1．はじめに

「英米語学科学生のための推薦図書」編集委員
福井 英次郎

明海大学外国語学部英米語学科の学科主任を務めていらっしゃった津留崎毅名誉教授は、『推薦図書』を発行するにあたり、次のように記していらっしゃいます。皆さんが多くの良書に出会うことを祈っております。

「“Seeing is believing”(「百聞は一見にしかず」)という言葉があります。これは『直接経験』の重要性を指摘したものと言えます。しかし、人が直接経験によって知り得ることには限界があります。直接経験のみを頼りにすることは、自分を取り囲むごく狭い世界の中に自分の人生を閉じ込めてしまうことです。

優れた書物は、直接経験によっては知り得ないような多様な世界について、宇宙について、人間について、人生について――ありとあらゆることについて、偉大な先人たちが、どのように捉え、どのように理解し、どのように対処してきたのかを教えてくれます。

この冊子には、英米語学科の専任教員が皆さんに是非読んで欲しいと願う図書についての推薦文が収められています。推薦されている図書の多くは、図書館や推薦者の研究室に行けば借りることができます。卒業までにできるだけ多くの本を読み、豊かな人生を送るための指針を手に入れてください。」

＊2020年度から、この冊子の表紙に「専任教員の研究室の本棚」の写真を掲載しています。第 5 弾は、Keiko Nakamura 先生の本棚です。

2. 2024年度 英米語学科教員

Kaji, Hiromi	鍛治 広真	
Kawahara, Shinichi	河原 伸一	(1705 研究室)
Kawanari, Mika	川成 美香	(1706 研究室)
Kotani, Tetsuo	小谷 哲男	(1620 研究室)
Matsui, June-ko	松井 順子	(1723 研究室)
Nakai, Nobumi	中井 延美	(1718 研究室)
Nakamura, Keiko	ナカムラ ケイコ	(1720 研究室)
Shimada, Tamami	嶋田 珠巳	(1702 研究室)
Tastumi, Yuta	辰己 雄太	(1618 研究室)
Yokoyama, Ryuichiro	横山 竜一郎	

-in Alphabetical order-

3. 英米語学科教員による推薦図書

鍛治　広真

☞野矢茂樹（1998）『無限論の教室』講談社現代新書

学生のころ授業や課題と関係なく読んで、なんとなくまだ覚えている本です。アキレスは亀に追いつけないのか、0.9999…＝1 なのか、「無限」とそれに付いて回る不思議なパラドクスを扱っているのですが、この本の面白さは授業形式で書かれている点です。単に会話形式ということではなく、受講生が 2 人しかいない哲学の授業を取ってしまった主人公の視点で語られています。一癖ある先生と食い下がる学生とのやりとりや、主人公の心の中での毒づきが可笑しいだけでなく、議論しながら考えを深めていくことを面白いと感じさせてくれます。

☞サイモン・シン／青木薫(訳)（2007）『暗号解読(上・下)』新潮社

同著者の『フェルマーの最終定理』にハマった後に読みました。暗号とは、何らかの方法で文を暗号文に変換することで、復元方法を知っている人にだけ情報を伝えることできます。秘密を守るために用いられてきた歴史上の様々な暗号は、いかにして破られない暗号を作るか、いかにして暗号を解読するかという戦いでした。古代ギリシャから第二次世界大戦時のドイツ軍の暗号機「エニグマ」、現代のインターネットで使われる暗号化や量子暗号まで暗号技術の解説自体も面白いのですが、解読に心血を注ぐ科学者達の物語に引き込まれます。

☞ゾラン・ニコリッチ／藤村奈緒美(訳)／山越康裕・塩原朝子（日本語版監修）（2022）『あなたの知らない世界の希少言語』日経ナショナルジオグラフィック

最近の本も 1 冊紹介したいと思います。この本では、セルビア（旧ユーゴスラビア）出身の著者の視点から、様々な言語についてその地域の歴史や話者の状況を一般向けに紹介しています。英語以外の外国語のことも少し知っていると（別に使えるようにならなくても）、世界を見るときの考え方が広がるのではないかと思います。世界の「珍しい」言語が 100 くらい紹介されており、掲載されている地図と写真

を眺めているだけでもなじみのない言語名が目に飛び込んできて、人間の言語が（そして言語を使う人間が）いかに多様であるのかを垣間見ることができます。世界にはこんなにも（約 7000 といわれているのでこれでもほんの一部ですが）多くの言語があり、その言語を使って生活をして文化を築いてきた様々な人々がいるということが実感できます。

河原　伸一

☞城山三郎（1980）『官僚たちの夏』新潮文庫

私は、大学３年生の時に、この本に出会いました。本書は、その後の私の進路を決定したという意味において、私にとってまさに「運命の書」です。

☞グラハム・アリソン／宮里政玄(訳)（1977）『決定の本質ーキューバ・ミサイル危機の分析』中央公論社　➲原著: Allison, G.& Zelikow, P.(2nd Ed.) (1999). *Essence of Decision-Explaining the Cuban Missile Crisis*. Pearson Longman.

☞ハンス・モーゲンソー／現代平和研究会(訳)（1986）『国際政治ー権力と平和』福村出版

学部の学生の時、この 2 冊を読みました。この 2 冊も私にとって「運命の書」となりました。国際政治学を専攻しよう、米国の大学・大学院で学ぼう、そして、大使館や国際機関で外交にたずさわり、世界平和に貢献しようと思うきっかけとなった本です。

川成　美香

☞井出祥子（2006）『わきまえの語用論』大修館書店

日本文化は「高コンテクスト文化」といわれている。日本語で的確に表現するのは、「場・コンテクスト」や「わきまえ」をいかに適切に認識するかにかかっている。日本文化と日本語のコミュニケーションを包括的に捉え、文化と言語の関わりを明らかにする語用論の入門書である本書は、英語と英語コミュニケーションを学ぶ学生には必読といえる。

☞直塚玲子（1980）『欧米人が沈黙するとき―異文化間のコミュニケーション』大修館書店

欧米人と日本人の間の異文化間のコミュニケーションで生じる誤解や疑問を、著者の実体験や豊富なインタビューなどに基づいて紹介し、その原因を文化的背景の相違に起因すると解明している。言葉そのものを重視する欧米人、言葉の裏にある言外の意を重視する日本人、「英語の発想」を知る原点ともいえる異文化コミュニケーションの 1980 年刊行の古典である。

☞土居健郎（1971/2001）『「甘え」の構造』弘文堂

「甘え」は日本人の日常生活にしばしば見られる感情だが、著者は外国にはそれに対応する適切な語彙がないことに気づき、カルチャーショックを受けた。フロイトの精神分析、ベネディクトの『菊と刀』、サピア・ウォーフの文化言語論などを比較検討し、「甘え」理論を構築、人間心理の本質を丹念に追究した。異文化コミュニケーションにも役立つ「日本人のメンタリティー」を解き明かす名著として、1971 年の刊行以来読み継がれている。

☞ルース・ベネディクト/長谷川松治(訳)（2005）『菊と刀―日本文化の型』講談社学術文庫　➲原著: Ruth Fulton Benedict. (2006). *The Chrysanthemum And the Sword: Patterns of Japanese Culture*. Mariner Books.

第二次大戦中の米国戦時情報局による日本研究をもとに執筆され、後の日本人論の原点となった不朽の書である。著者のルース・ベネディクトは、日本人の行

動や文化の分析からその背後にある独特な思考や気質を解明し、日本人特有の性質や特徴を見事に浮き彫りにしている。“菊の優美と刀の殺伐”に象徴される日本文化の型を示し、その本質を洞察した、第一級の日本人論である。

☞塩野七生（1988）『マキアベェッリ語録』新潮社

浅薄な倫理や道徳を排し、ひたすら現実の社会のみを直視した中世イタリアの思想家・マキアヴェッリ。「マキアヴェッリズム」という言葉で知られる彼の思想の真髄を、塩野七生が一冊にまとめた箴言集。組織とは、人間とは、リーダーとは…何か。困難な時代を生き抜くためには必要不可欠で、現代にも通じる鋭い洞察の数々を知ることができる。

小谷　哲男

☞ポール・ジョンソン／別宮貞徳・訳（2001 年～2002 年）『アメリカ人の歴史 Ⅰ～Ⅲ』共同通信社

アメリカ合衆国の創出は人類最大の冒険である」ことに気づいたイギリス人の歴史家によって書かれた、アメリカではなく、“アメリカ人”の歴史。アメリカの歴史はたかだか 200 年少しと言われるが、多くの国の建国史が神話や伝説によって美化されている一方、アメリカ人は合衆国の創出の記録を、先住民の虐待や奴隷制度など、隠したいことも含めてつぶさに残してきた。本書は、16 世紀から 20 世紀の終わりまでのアメリカ人の歴史を膨大な史料に基づいて振り返り、アメリカ人の理想と現実の歴史に著者の主観による分析が加えられていく。ここまで赤裸々なアメリカ史の通史は他にないだろう。私も学生の時、本書を読んでアメリカへの関心をより強くした。アメリカ英語を身につけるためには、アメリカの社会や文化も理解する必要があるが、本書は日本の学校教育で学ぶアメリカ史とは違う見方を提供し、みなさんのアメリカ理解をさらに深めるだろう。

☞ジョセフ・S.ナイジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ／田中明彦、村田晃嗣・訳（2017 年）『国際紛争：理論と歴史原書第 10 版』有斐閣

ソフトパワー論で有名な著者が、元々はハーバード大学の 1 年生のために書いた国際関係論の入門書だが、現在では世界中の大学で教科書として使われている。入門書とは言っても、国際関係論の理論や概念を丁寧に解説していくものではなく、理論や歴史を使って国際政治を考えるアプローチの見本を示しているため、初心者にはやや難解だ。いきなり古代ギリシア時代のペロポネソス戦争から説き起こしているため、少なくとも歴史に一定の知識がないと読み進めることはたやすくはないだろう。原書の英文も読みやすいが、和訳版は日本を代表する国際政治学者が訳しており、和文でも読みやすい（実は私も下訳を担当した）。私は国際会議で著者と一緒になることがあるが、その鋭い分析にはいつも感銘を受ける。国際関係論に関心のある人には、ぜひナイ教授がどのように国際政治をみているのか、本書を通じて知ってもらいたい。

☞高坂正堯（2008 年）『海洋国家日本の構想』中公クラシックス

本書は、戦後日本の論壇に現実主義の立場から貢献し、多くの弟子も輩出した著者の初期の論文集。著者の論壇デビュー作である「現実主義者の平和論」から、本のタイトルとなっている「海洋国家日本の構想」など1960年代に書かれた7本の論文が掲載されており、日本で国際関係・国際政治を学ぶなら必読書だ。今からおよそ 50 年前の論文集とはいえ、今日の日本、アジア、そして世界を考える上で多くの示唆を残している。特に、「海洋国家日本の構想」は、西洋でもなく東洋でもない日本の針路を示すものとして、学者・研究者だけではなく、政治家・官僚の間でも高く評価されている。私も、この論文に刺激を受けて、（遅れに遅れてはいるが）新書を執筆中。みなさんにも、ぜひ日本の現実主義学派の原点に触れてもらいたい。

☞石黒桂（2020 年）『段落論：日本語の「わかりやすさ」の決め手』（光文社新書）

本書は、文章を読み書きする際の段落の重要性に注目したユニークな内容となっている。文章を書くことを「引っ越し」にたとえ、部屋に散らばる様々な小物をそのままトラックに載せるのではなく、衣類、食器、文房具など、種類別にラベルを貼っ

て段ボールに詰めれば効率的な引っ越しができるが、ラベルを貼って段ボールに詰める作業が、頭の中にある文を段落という段ボールに整理することと同じだと本書は指摘する。これは日本語だけでなく、英語にも当てはまることである。授業のレポートを書く際にはもちろん、英語のリーディングやライティングにも本書は役立つだろう。

松井　順子

☞Mark Twain/ Guy Cardwell(Ed.). (1986). *The Adventures of Tom Sawyer*. Penguin Classics, Penguin Books.

This is a book about a young boy, Tom, who lives with his Aunt Polly. Tom represents the constraints and conventions of this world – a boy who wants to break free, but remains within the confines of the world he was born and raised in. His antithesis, Huckleberry Finn is the epitome of freedom and at the same time, he represents the reverse side of that coin: poverty, anxiety, and an unstable life – the other side of freedom which Tom probably does not fully see. In an imperfect world, "freedom" is never complete. Pick and choose - the limited "freedom" of a comfortable traditional life - Tom's freedom, or the "freedom" to ignore society, and pay the penalty - Huckleberry Finn's freedom.

☞Lewis Carroll. (1865/2000). *Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking Glass*. Signet Classic. Penguin Books. [paperback]

This story about a girl who falls into a hole into a different world, changes our perspective on life. Alice tries to apply the book learning from school in this new world, but nothing works. She grows, then shrinks, and goes through a range of wild experiences. Here, none of the "conventions" of normal life apply. Big ... small ... right .. and wrong ... are all reversed. Despite the ridiculous setting and the ridiculous story, *Alice in Wonderland* continues to inspire and captivate audiences of all ages and walks of life, reminding us that much of what we take for "normal" could simply

be a matter of perspective.

注:上記の本に関連して、下の CD, DVD も図書館に揃えました。

☞ Lewis Carroll. Alice in Wonderland CD Pack (Book & CD). Penguin Readers Simplified Text.

☞ Alice in Wonderland (Book of the Film) Tim Burton、 Linda Woolverton Puffinbooks. Penguin Books. Disney Enterprises.

☞ アリス・イン・ワンダーランド [DVD] 出演 ジョニー・デップ、ミア・ワシコウスカ、ヘレナ・ボナム=カーター、 アン・ハサウェイ (DVD - 2010)

中井　延美

☞中井延美（2018）『必携！日本語ボランティアの基礎知識』大修館書店

日本語ボランティアのために、日本語学習者に「ことばで寄り添う」ための最低限のノウハウを紹介。ボランティアとして日本語を教えるときに、どのような心構えで学習者と向き合えばよいのか、教えるときに何に注意したらいいのか、どのような知識が必要なのか―日本語ボランティアに必要なことを一つひとつ丁寧に解説します。日本語ボランティアをする、しないに関わらず、日本語でも英語でも「ことばが好きな人」「ことばを大切に使いたい人」「ことばに関する疑問に“なぜだろう？”と考えてみたい人」にお勧めです。

☞今井邦彦・西山佑司（2012）『ことばの意味とはなんだろう―意味論と語用論の役割』岩波書店

「文形式の意味」を扱う意味論と、脈絡に左右されることに特徴をもつ「発話の意味」を扱う語用論。従来その境界を曖昧にしたまま意味が論じられてきましたが、関連性理論が両者の守備範囲を明確にしました。語用論的意味が言語形式自体の意味論的意味に制約されていることが多くの具体例を用いて論じられ、意味の科学のあるべき姿が提示されています。

☞鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』 岩波新書

文化が違えばことばも異なり、その用法にも微妙な差があります。人称代名詞や親族名称の用例を外国語の場合と比較することにより、日本語と日本文化のユニークさを浮き彫りにし、ことばが文化と社会の構造によって規制されることを具体的に立証して、ことばのもつ諸性質を興味深くえぐり出します。ことばの問題に興味をもつ人のための入門書です。

Keiko Nakamura

☞W. Bruce Cameron. (2010). *A Dog's Purpose*. Pan Books.

This is a highly readable bestselling novel which was made into a Hollywood movie recently. It follows a dog's journey through four lives through reincarnation, in which his spirit remains the same. What makes this story unusual is that it is written from the point-of-view of a dog. Starting when the puppy first open his eyes, he grows and learns as he discovers his purpose in life. Eventually he grows old and is reborn as a new puppy. The narrator (the dog) first starts out as a feral puppy, after which he is reincarnated as a Golden Retriever (family dog), German shepherd (a search-and-rescue dog), and a black Labrador Retriever. During each life, the narrator examines the question of his/her purpose in life, serving his human owners to the best of his ability even if they are cruel and thoughtless.

☞Jean Aitchison. (2008). *The Articulate Mammal*. Routledge.

This introduction to psycholinguistics has been a classic in the field for almost 40 years. Aitchison explores many interesting controversies in the field: What is language? Do animals have language? How do children learn language? Is language innate or learned? How do babies prepare for language? How do we understand and produce speech? What happens when language breaks down? In addition, she discusses several new state-of-the-art topics in the field, such as language and

evolution, as well as the possibility of a "language gene." This is an excellent and easy-to-read text, filled with interesting examples.

☞Jo Hemmings. (2018). *How Psychology Works.* DK Penguin Random House.

This is a new introduction to psychology, filled with visual explanations of a multitude of topics representative of the field of psychology. It starts out by discussing the various approaches to psychology, such as psychoanalytical theory, behaviorism, cognitive psychology, and biological psychology. It also explores various psychological disorders, such as SAD (seasonal affective disorder) and ADHD (attention deficit hyperactivity disorder). In the section on healing therapies, it discusses different approaches to therapy, such as psychodynamic therapies, cognitive/behavioral therapies, humanistic therapies, systemic therapies, and biotherapies. Finally, it looks at applications of psychology in the real world, such as psychology in education, psychology in the workplace, forensic psychology, community psychology, consumer psychology, and the psychology of sports. This book covers a wide range of topics, but does so with the use of colorful and fun visualizations, making it an interesting introduction to the field of psychology.

嶋田　珠巳

☞梶茂樹／中島由美／林徹編 (2009)『事典 世界のことば 141』大修館書店

世界 141 の言語について、基本的な言語情報、簡単な挨拶・表現例、お薦めの本や信頼できるウェブサイト、さらにその言語を話す人々の暮らしが紹介されている。現地で調査を行っている日本のフィールドワーカーが執筆しているので、なまの情報が得られます。

☞真田信治（2001）『方言は絶滅するのか　自分のことばを失った日本人』PHP新書

私たちの普段の会話にみる方言と標準語の混交、アクセント型など、自らの言語使用について内省とともに考えることのできる本。方言ないし言語の消滅、方言の変容と変化の動態、方言と教育といったトピックについて深く考えたい人にもそのきっかけを与えてくれそう。

☞ルイ＝ジャン・カルヴェ/砂野幸稔ほか訳（2010）『言語戦争と言語政策』三元社

カルヴェはチュニジア生まれ、フランスの社会言語学者。原著が出版されたのは 1987 年とずいぶん前ですが、当時の論考は色褪せないどころか、いま言語学が取り組むべき課題を明るみに出します。言語の社会的側面がいかにして言語内部にはたらきかけるのか。たとえば第 9 章「言語の死」における、ボリビアのケチュア語がスペイン語との言語接触をうけてどのようになっていくかの記述は、その考察のお手本的実践。

☞嶋田珠巳（2016）『英語という選択―アイルランドの今』岩波書店

アイルランド英語をめぐる自分の研究のことを書いた拙著。みんなの感性に触れて、引っかかったところ、好きな章をぜひお聞かせください。著者の「英語学特講Ⅲ」も合わせてどうぞ。

☞嶋田珠巳・斎藤兆史・大津由紀雄編（2019）『言語接触―英語化する日本語から考える「言語とはなにか」』東京大学出版会

言語接触（language contact）の深みに 12 名の著者が誘います。これから日本語はどうなっていくのか、英語とどうつきあうのかといった問いを真剣に考えたい人が読むといい本です。いや、それ以上かも。ちょっと見てみて。

辰己　雄太

☞佚斎樗山（著），石井邦夫（訳注）（2014）『天狗芸術論・猫の妙術　全訳注』
講談社学術文庫

天狗と猫が出てくる物語をまとめた短編集です。どういうジャンルに分類したらよいか難しいですが、あえて言うなら武道についての秘伝書でしょうか。ただ、武術や剣術に限った話ではなく、本の内容を抽象化して、他のいろいろなことに関係するお話として読めると思います。私も研究者として、影響を受けた部分があるかもしれません。物語の内容は、ぜひご自身で確かめてみてください。

本の内容とは関係のない話ですが、今、Google Translation に「彼は天狗になっている」と入れると、"He is a tengu."と訳されました。間違いではないですが、「天狗になる」は多くの場合、この意味では使われないでしょう。英米語学科の皆さんは「天狗になっている」を英語で説明できますか？

☞J.D. サリンジャー（著），野崎 孝（翻訳）（1974）『ナイン・ストーリーズ』
新潮文庫

サリンジャーの短編集です。サリンジャーと言えば『ライ麦畑でつかまえて』が有名かもしれません。もしかしたら、名前くらいは聞いたことがある人もいるでしょうか。この短編集に収録されている物語は、どれも独立しているので、必ずしも全てを読む必要はありません。それぞれのタイトルを見て、気になった物語だけを読んでも、問題ないと思います。

私はアメリカのコネチカット州に五年ほど留学していたので、この本に収録されている「コネティカットのひょこひょこおじさん」という作品に特に思い入れがあります。初めてこの物語を読んだのは留学する前でしたが、実際にコネチカット州で生活してから「コネティカットのひょこひょこおじさん」を読み返すと、物語により親近感を持てるようになりました。どんなことがきっかけになるかわかりませんが、学生の皆さんも、ぜひお気に入りの物語を見つけてみてください。

翻訳版ももちろん良いですが、英米語学科の学生の皆さんは、よければぜひ一度、英語のものに挑戦してみてください。たとえ同じ桃太郎でも、アナウンサーが話すのと、落語家が話すのとでは、だいぶ印象が違うはずです。それと同じことが、

日本語と英語でも起きるかもしれません。

☞土屋賢二（著）(1997)『われ笑う、ゆえにわれあり』文春文庫

哲学をご専門にされている土屋賢二先生が執筆された、ユーモアエッセイ集です。私は、人前ではこの本を読まないようにしています。別にこの本を読んでいることが恥ずかしいわけではありません。読んでいるとついつい笑ってしまいそうになるので、その様子を人に見られたくないからです。面白いという感覚は人それぞれ違いますが、学生の皆さんもこの本を読む時は、念のため、声を出して笑っても問題ない環境を確保してからにしたほうがいいかもしれません。

この本に出てくるユーモアの手法は、日本ではあまり一般的ではないかもしれません。しかしこの種類のユーモアは、文化的背景知識がなくても理解しやすいので、海外の人たちと話をするときに、利用できる機会が多いように思います。例えば、日本の漫才を単純に外国語に翻訳しただけでは、漫才という文化を知らない外国の方には、その面白さがなかなか伝わらないかもしれません。それに比べると、ユーモアはセンスを磨いておけば、文化の枠を超えて通用しやすいはずです。私は文化史などについては全くの素人ですが、ユーモアという手法の有用性を感じる経験が、アメリカ留学中に何度かありました。英米語学科の学生の皆さんも、ユーモアというものを知っておいて、損はないと思います。

横山　竜一郎

☞三木那由他（2022）『言葉の展望台』講談社

この本は哲学者によって書かれた言語とコミュニケーションについてのエッセイ集です、と紹介すると難しそうに感じるかもしれませんが、そのトピックが「先生」と呼ばれることへのモヤモヤ、紅茶にレモン汁と間違えてすだち汁を入れたときの知人とのやりとり、漫画『ヒロアカ』で爆轟が出久に過去のいじめを謝る名場面での感動など、と言ったらどうでしょう。著者は「哲学というのは単なる現実離れした抽象的な思考ではなく、現実をさまざまな角度で、あるいはさまざまな解像度で見るための

レンズのようなもの」と述べます。言葉に関心のある人なら誰でも、日常世界の見え方が変わる洞察を発見することができる本としておすすめします。

☞平井正穂編訳（1990）『イギリス名詩選』岩波文庫

私は英詩が専門なので、その分野から一冊、16 世紀から 20 世紀までのイギリス詩を百篇集めたアンソロジーを紹介します。持ち運びしやすい小ぶりの文庫ですが、見開きの左頁には原文（英語）、右頁には訳文（日本語）が対訳形式で並べられ、いくつかの語句には注釈もついているなど、親切なつくりが魅力的です。同シリーズからは別の編訳者による『アメリカ名詩選』も出版されています。価格も安く、多くの書店に置いてありますから、一冊買って自宅だけでなく喫茶店や散歩先などでぱらぱらと読むのにもぴったりです。ここがよくわからない、謎だ、これは誤訳では、といった疑問が生じる作品があれば教えてください。一緒に考えましょう。

☞阿部公彦（2012）『文学を〈凝視する〉』岩波書店

どんな領域でも、専門的な学習や研究に進もうとする第一歩には、単純な面白さが関わってくるものです。文学研究の場合、面白い作品との出会いも大切ですが、ただ作品を愛でるのではなく、それを研究対象として語る必要もあるわけで、そうすると面白い研究との出会いも大切になります。しかし、いきなり専門的すぎる論文や学術書はハードルが高いので、文芸批評系の本が良い入口になるでしょう。私にとってのそのひとつが本書で、こんなに面白い批評があっていいのか、と学生時代に図書館で感動した思い出があります。第一章を読み終えた後、興奮のあまりに一度本を閉じ、窓際の席から外を見たときの景色すら今でも鮮明に覚えています。

Recommended Reading for Eibei Students (Ver. 14)

Published by Department of English,
Faculty of Languages and Cultures,
Meikai University, March 2024

Recommended Reading for Eibei Students, Ver. 14
英米語学科推薦図書 2024